

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リコット岡崎市久後崎町宮前	階数	地上10階
建設地	愛知県岡崎市久後崎町宮前17番 他3筆	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	99人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年8月 予定	評価の実施日	2023年3月1日
敷地面積	990 m ²	作成者	成瀬 德行
建築面積	294 m ²	確認日	2023年3月1日
延床面積	2,338 m ²	確認者	成瀬 德行



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

★ ★ ★ ★ ★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	52%
③上記+②以外の	52%
④上記+	52%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>11.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	11.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	11.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質										3.0	
Q1 室内環境										3.5	
1 音環境										2.9	
1.1 室内騒音レベル				0.1	3.0	0.15	2.9	2.9	1.00		
1.2 遮音				3.0	3.0	0.50		3.0	0.50		
1 開口部遮音性能				0.5	3.0	0.50		2.9	0.50		
2 界壁遮音性能						1.00		3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			床材Lr-45使用					2.0	0.30		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								4.0	0.20		
1.3 吸音								3.0	0.20		
2 温熱環境										3.8	
2.1 室温制御				0.3	3.0	0.35	4.0	4.0	1.00		
1 室温				1.0	3.0	1.00	4.0	4.0	1.00		
2 外皮性能			全住戸外皮の平均貫流率(UA値)0.87以下	3.0	-	-		-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	1.00		4.0	1.00		
2.2 湿度制御				3.0	-	-		-	-		
2.3 空調方式				3.0	-	-		-	-		
3 光・視環境										3.3	
3.1 昼光利用				0.2	2.3	0.25	3.6	3.6	1.00		
1 昼光率			昼光率3%以上	0.3	1.8	0.30	4.0	4.0	0.30		
2 方位別開口				3.0	1.0	0.60		5.0	0.50		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	0.30		
3.2 グレア対策				0.3	2.0	0.30	4.0	4.0	0.30		
1 昼光制御			カーテン、庇の取付により昼光を制御	5.0	2.0	1.00		4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		3.0	0.25		
4 空気質環境										3.7	
4.1 発生源対策				0.2	3.6	0.25	3.7	3.7	1.00		
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆をほぼ使用	0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63		
4.2 換気				0.4	3.0	0.40	3.3	3.3	0.38		
1 換気量				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
2 自然換気性能			居室において十分な開口部を確保	3.0	-	-		4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-		-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-		-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-		-	-		
Q2 サービス性能										3.0	
1 機能性										3.0	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.3	0.40	3.0	3.0	1.00		
1 広さ・収納性				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-		-	-		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	1.00		3.0	1.00		
1.2 心理性・快適性				0.3	4.0	0.30	3.0	3.0	0.40		
1 広さ感・景観(天井高)				3.0	-	-		3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-		-	-		
3 内装計画			共用部分、取り組み数3	3.0	4.0	1.00		3.0	0.50		
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30		-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50		-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-		
2 耐用性・信頼性										3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	3.2	0.31	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.7	0.33	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			RC造 劣化等級3(住宅性能評価)	-	5.0	0.23	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	外装仕上材(吹付・タイル貼)補修年数25~60年	-	4.0	0.23	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水管・排水管・汚水管:期待耐用年数40年以上	-	5.0	0.15	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	2.0	0.23	-	-	-		
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-		
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-		
4 機械・配管支持方法		②		3.0	3.0	0.20	-	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-		

3 対応性・更新性				0.2	3.2	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	-	-	2.6	2.6	0.50	
1	階高のゆとり			-	-	-		3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			3.0	-	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.2	1.00				
1	空調配管の更新性	②			-	-				
2	給排水管の更新性			3.0	4.0	0.20				
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.13				
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.13				
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.27				
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.27				
性能表示「維持管理対策等級 2等級」取得										
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				2.4
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性						-				3.4
LR1 エネルギー						0.40				3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制					性能評価 断熱性能等級4相当	3.0	4.0	0.33		4.0
2 自然エネルギー利用						3.0	3.0	0.17		3.0
3 設備システムの高効率化					BEI=0.89	3.0	4.2	0.33		4.2
4 効率的運用						0.1	3.0	0.17		3.0
集合住宅以外の評価										
4.1	モニタリング			3.0	3.0	-				
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	-				
集合住宅の評価						1.0	3.0	1.00		
4.1	モニタリング				3.0	0.50				
4.2	運用管理体制				3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル						-	0.30			3.0
1 水資源保護						0.1	3.4	0.15		3.4
1.1 節水					節水型便器・節湯機器等使用	3.0	4.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						0.6	3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-				
2 非再生性資源の使用量削減						0.6	2.7	0.63		2.7
2.1 材料使用量の削減							3.0	0.07		
2.2 既存建築躯体等の継続使用							3.0	0.24		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		-		3.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		-		3.0	1.0	0.20	
2.5 持続可能な森林から産出された木材							3.0	2.0	0.05	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		フリーフロア		3.0	4.0	0.24	
3 汚染物質含有材料の使用回避						0.2	3.3	0.22		3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避						0.6	3.5	0.68		
1	消火剤									
2	発泡剤(断熱材等)				ODP=0、GWP=3程度		4.0	0.50		
3	冷媒					3.0	3.0	0.50		
LR3 敷地外環境							-	0.30		3.6
1 地球温暖化への配慮			①		ライフサイクルCO2排出率52%		4.9	0.33		4.9
2 地域環境への配慮						0.3	3.1	0.33		3.1
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善							3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制						0.2	3.5	0.25		
1	雨水排水負荷低減	独自					3.0	0.25		
2	汚水処理負荷抑制						3.0	0.25		
3	交通負荷抑制	独自			駐車場、駐輪場等、適切なスペース・導入路の確保。		5.0	0.25		
4	廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25		
3 周辺環境への配慮						0.3	3.0	0.33		3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						0.4	3.0	0.40		
1	騒音	独自					3.0	1.00		
2	振動	独自								
3	悪臭									
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						0.4	3.0	0.40		
1	風害の抑制						3.0	0.70		
2	砂塵の抑制						1.0	-		
3	日照障害の抑制						3.0	0.30		
3.3 光害の抑制						0.2	3.0	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)リコト岡崎市久後崎町宮前

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.9	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:11.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)リコト岡崎市久後崎町宮前

計画上の配慮事項	
総合	県道沿い(バス通りでもある)にあり、そのまま道沿いに700mほど行くと名鉄東岡崎駅につくことができ、交通の便が良い。 西三河総合庁舎・病院・保育園・小中学校・ショッピングセンター等が近くにある、快適に住みやすい環境にある。
Q1 室内環境	床スラブは、約230mm~250mmの厚みを確保し、階下への衝撃音の伝わりを軽減。また、中空スラブを採用。強度を落とさずにスラブ自重を軽減、天井に小梁のない広い空間が確保できる。 建材はF☆☆☆☆をほぼ使用。
Q2 サービス性能	共用部は間接照明を利用し、内装を計画。 インターネットの集合一括契約、地上波デジタル放送、BS・CSアンテナから受信する電波(4K・8K対応)の混合配信等情報通信設備の充実。
Q3 室外環境(敷地内)	道路反対側境界から建物が離れる様、中央に計画し、採光がとれる様建物を南向きとし、駐車場を確保。 駐車台数に考慮しつつ、なるべく緑地も設ける様配置。
LR1 エネルギー	外皮の熱貫流率0.87を各住戸クリアし、断熱4の断熱仕様とした。 共用部、外構の照明、非居室はLEDを使用し、消費エネルギーの低減に配慮。
LR2 資源・マテリアル	節水型トイレや、節湯・節水型水栓を使用、エコジョーズの採用により、水量・ガス量も削減。エコ設備の充実。 接着剤の化学物質排出はないものとする。
LR3 敷地外環境	夏季の卓越風の妨げにならないよう隣地との間隔をあげ、なるべく見付面積が小さくなるようにした。 敷地への進入路を2ヶ所設け、渋滞発生の緩和を考慮。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。